

# 特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT36条及びPCT規則70〕

REC'D 22 JUL 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 Kyoka-002PCT	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/010051	国際出願日 (日.月.年) 14.07.2004	優先日 (日.月.年) 15.07.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <sup>7</sup> A01N3/00		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社京華クラフト		

- この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
  - ☒ 附属書類は全部で 5 ページである。
    - ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
    - ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
  - ☐ 電子媒体は全部で \_\_\_\_\_（電子媒体の種類、数を示す）。  
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 31.01.2005	国際予備審査報告を作成した日 06.07.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 吉住 和之 電話番号 03-3581-1101 内線 3443	4H 9165

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

## 第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。  
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査  
☐ PCT規則12.4にいう国際公開  
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1, 3-9 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 2, 2/1, 10 \_\_\_\_\_ ページ\*, 31.01.2005 付で国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*, \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 7, 8 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*, PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 1, 3-6, 9 \_\_\_\_\_ 項\*, 31.01.2005 付で国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*, \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*, \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*, \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☒ 明細書 第 11-17 \_\_\_\_\_ ページ  
☒ 請求の範囲 第 2 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則 70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1, 3-9	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1, 3-9	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1, 3-9	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

請求の範囲 1、3-9は、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

### 発明が解決しようとする課題

[0003] 本発明は、このような欠点を解消し、広く天然の植物を利用し、耐久性よく新鮮な状態で、鮮明な色を保持する造花を、誰もが容易に安定して製造できる造花の製造方法及びそれに使用する仕上げ剤を提供することを課題とする。

### 課題を解決するための手段

[0004] 本発明では、天然の植物を使用した造花の製造方法において、仕上げ剤として、

a) 炭素数 1 ～ 3 の低級アルコールと

b) すくなくとも一種のグリコールエーテル

を 1 ～ 99 : 99 ～ 1 の重量比率で含有する溶媒からなるものを使用することにより、前記課題を解決した。

[0005] 前記グリコールエーテルとしては、例えばジエチレングリコールモノメチルエーテル、トリエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、トリエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノブチルエーテル、トリエチレングリコールモノブチルエーテル、ポリエチレングリコールモノアルキルエーテル、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、ポリプロピレングリコールモノアルキルエーテル及びポリ（オキシエチレン・オキシプロピレン）グリコールモノアルキルエーテルなどを使用するのが好ましい。また、b) 成分としては、これらグリコールエーテルと共に多価アルコール、例えばエチレングリコール、プロピレングリコール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、ブチルジグリコール、グリセリン、チオジエチレングリコール、モノエチルグリコール、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、ポリ（オキシエチレン・オキシプロピレン）グリコール、エチルジエチレングリコール、ポリオキシプロピレントリオール及びポリ（オキシエチレン・オキシプロピレン）トリオールなどが使用されてもよい。

[0006] この仕上げ剤は、植物に直接適用できるものであり、この仕上げ剤に植物を直接浸漬

2/1

して、所定時間経過した後に、取出し、乾燥するという簡単な手法で、安定して、天然の植物と遜色ない自然な外観の造花を安定して製造可能とする。なお、他の方法として、従来法で製造された造花の後処理剤としても効果的に適用できるものであり、その適用は、前記造花の製造直後だけでなく、製造後時間を経過した場合であ

した。自然な外観を留めた緑色のアスパラペラの保存葉が得られた。1年後もその外観は保たれた。

[0032] 「実施例 1 2」

一液処理：

エチルアルコール	1 0 0 0 c c
イソプロピルアルコール	2 0 0 c c
グリコールエーテル	2 5 0 c c
エチレングリコール	1 5 0 c c
グリセリン	1 0 c c

染料（朱鷺色）

からなる液に、十分水揚げしたレザーファンを浸漬し、24時間後に取り出し、5分ほど液を切った後、減圧機の中に入れ、真空ポンプで-500 mmHgまで引き、加熱して乾燥した。減圧乾燥を1時間した後、取り出したレザーファンの保存葉は、自然な外観を留めたまま、朱鷺色で、1年間変化なく維持された。

[0033] 「実施例 1 3」

一液処理：

エチルアルコール	1 5 0 0 c c
イソプロピルアルコール	5 0 0 c c
グリコールエーテル	5 0 0 c c
エチレングリコール	2 0 0 c c
ポリエチレングリコール	3 0 c c

からなる液に、古代蓮の花を入れ、48時間浸漬後、取り出し自然乾燥した。古代蓮は、色が完全に抜けて白くなった状態で仕上がった。これに顔料を主成分とした塗料を塗布し、花本来の状態の色調に仕上げた。古代蓮は、生花の状態の色を取り戻した保存花に仕上がった。その美しい外観は1年後もそのまま維持された。

請求の範囲

- [1] (補正) 天然の植物をそのまま造花にするための仕上げ剤であって、
- a) 炭素数1～3の低級アルコールと
  - b) すくなくとも一種のグリコールエーテル
- を1～99：99～1の重量比率で含有する溶媒からなることを特徴とする造花の仕上げ剤。
- [2] (削除)
- [3] (補正) 前記グリコールエーテルがジエチレングリコールモノメチルエーテル、トリエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、トリエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノブチルエーテル、トリエチレングリコールモノブチルエーテル、ポリエチレングリコールモノアルキルエーテル、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、ポリプロピレングリコールモノアルキルエーテル及びポリ（オキシエチレン・オキシプロピレン）グリコールモノアルキルエーテルからなる群から選ばれるものである請求項1の仕上げ剤。
- [4] (補正) 成分として多価アルコールとグリコールエーテルを併含する請求項1の仕上げ剤。
- [5] (補正) 染料を添加混合した請求項1の仕上げ剤。
- [6] (補正) 酸化防止剤を含む請求項1の仕上げ剤。
- [7] 植物の花又は葉を、直接、請求項1～6に記載される仕上げ剤に浸漬後、乾燥することにより、自然な状態で長期保存可能な造花に仕上げることを特徴とする、造花の製造方法。
- [8] 植物の水分を、水に可溶性で、水より比重の小さい揮発性有機溶媒（A液）で置換した後、前記有機溶媒を、ポリオキシエチレン誘導体溶液（B液）で置換して、生花を長

期保存出来る造花に製造するものであって、前記ポリオキシエチレン誘導体で処理した生花の表面の少なくとも一部に、請求項 1 ～ 6 に記載された仕上げ剤を付与することを特徴とする、造花の製造方法。

- [ 9 ] （追加）前記多価アルコールがエチレングリコール、プロピレングリコール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、ブチルジグリコール、グリセリン、チオジエチレングリコール、モノエチルグリコール、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、ポリ（オキシエチレン・オキシプロピレン）グリコール、エチルジエチレングリコール、ポリオキシプロピレントリオール及びポリ（オキシエチレン・オキシプロピレン）トリオールからなる群から選ばれるものである請求項 4 の仕上げ剤。